「年代別・地域別にみる
京都の銭湯の特徴」

2025 年度京都橘大学
工学部建築デザイン学科卒業論文
a602022144　坂田奈穂

目次 1
論文構成図 2
第 1 章序論 3
1.1 背景と目的
1.2 調査方法
第 2 章銭湯の歴史 5
2.1 銭湯ができるまで
2.2 江戸時代の銭湯
2.3 明治時代以降の銭湯の変化
第 3 章タイルと絵画について 6
3.1 タイルについて
3.2 絵画について
第 4 章銭湯の特性 8
第 5 章分析結果 24
5.1 年代別
2.1 銭湯ができるまで 5.1.1 年代別における床面の特徴
5.1.2 時代別における壁面の特徴
2.3 明治時代以降の銭湯の変化 5.1.3 年代別のまとめ
5.2 地域別
5.2.1 地域別における床面の特徴
5.2.2 地域別における壁面の特徴
5.2.3 地域別のまとめ
第 6 章結論と今後について 32
注釈、参考文献 32

論文構成図

第 1 章序論
　1.1 背景と目的

　1.2 調査方法

第 2 章銭湯の歴史
　2.1 銭湯ができるまで

　2.2 江戸時代の銭湯

　2.3 明治時代以降の銭湯の変化
第 3 章タイルと絵画について
　3.1 タイルについて

　3.2 絵画について

第 4 章銭湯の特性

第 5 章分析結果
5.1 年代別
　5.1.1 年代別における床面の特徴

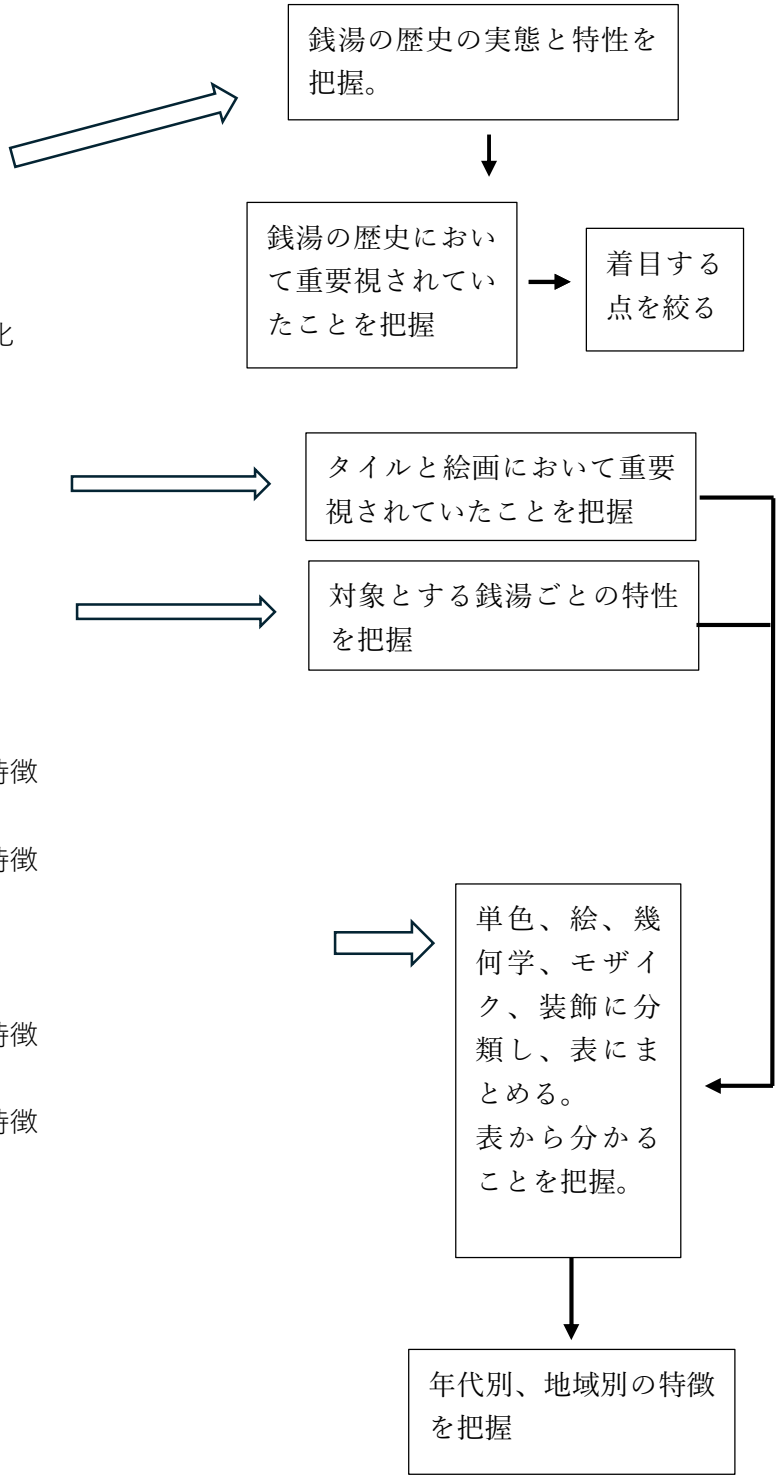
　5.1.2 時代別における壁面の特徴

　5.1.3 年代別のまとめ
5.2 地域別
　5.2.1 地域別における床面の特徴

　5.2.2 地域別における壁面の特徴

　5.2.3 地域別のまとめ

第 6 章結論と今後について



第 1 章序論

1.1 背景と目的

厚生労働省の衛生行政報告の公衆浴場数の推移（図 1-1）によると公衆浴場全体に占める銭湯等の割合が、1999 年度は 8422 件だったのに対し、2017 年度は 3729 件と 20 年間で約 33%から約 15%に減少しており、銭湯の数が減っている [1)]。その背景として 2 つあると考える。1 つは銭湯を利用する人が減っていることである。法務省の平成 20 年住宅・土地統計調査の住宅における浴室保有率（図 1-2）から浴室のある住宅は約 4739 万戸，浴室のある住宅の割合（浴室保有率）は 95.5%となっていること分かる [2)]。このことから、家でもお風呂がはいれるようになったことなどライフスタイルの変化により、銭湯を利用する人が減っている。2 つは様々な要因で銭湯を残していくことが困難になり、銭湯の数が減っている。厚生労働省の平成 24 年度生活衛生関係営業経営実態調査の銭湯の経営問題（図 1-3）から経営者の高齢化や若者の銭湯離れなどの客数の減少や、燃料費、光熱費の上昇、建物や設備の老朽化によって改修や新しい設備投資が困難になり廃業に追い込まれている [1)] という現状がある。

図 1-1　公衆浴場数の推移

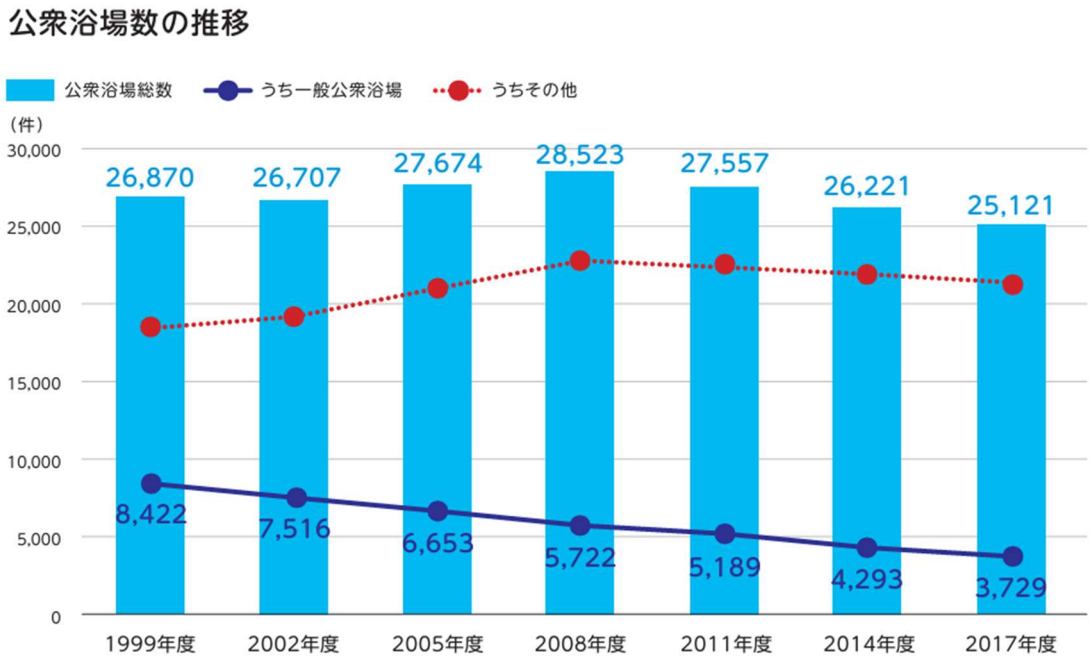
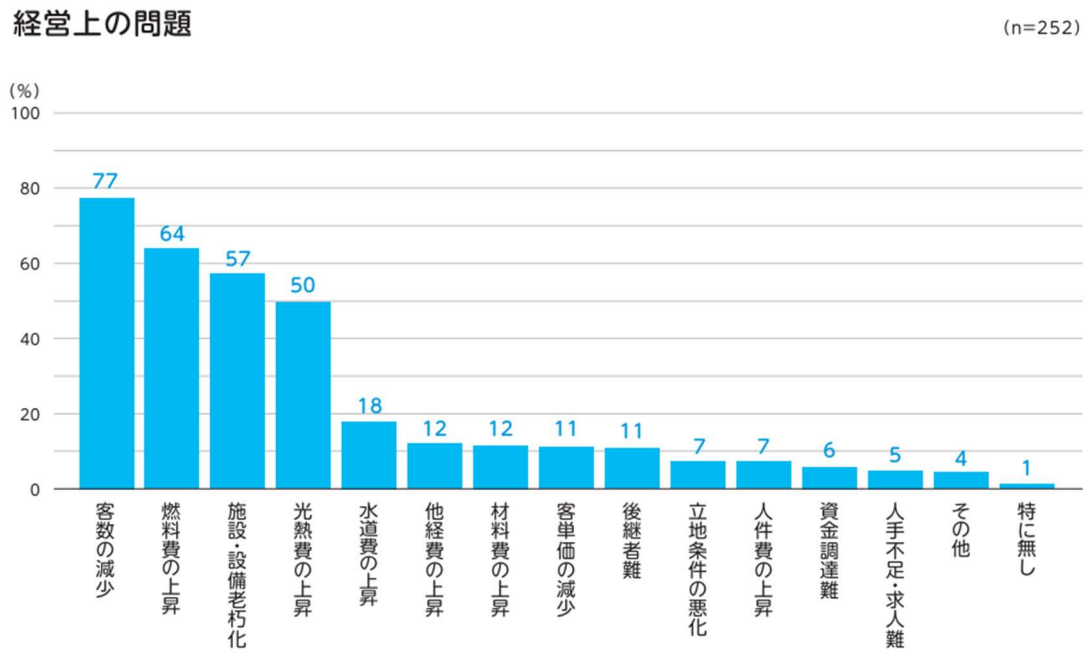


図 1-2　住宅における浴室保有率

表2-25 保有状況(浴室，洗面所)別住宅数－全国(平成15年，20年)

年次	実数（1000戸）			割合（%）		
	住宅総数	うち浴室あり	うち洗面所あり	住宅総数	うち浴室あり	うち洗面所あり
平成20年	49,598	47,386	44,410	100.0	95.5	89.5
15年	46,863	44,825	41,309	100.0	95.7	88.1

図 1-3　銭湯の経営問題



江戸時代から明治時代初期までの銭湯には 2 階に座敷があり、男性のみの休憩場としてさまざまな使われ方をした。当初は武士が刀を預ける場所だったが、のちに湯に入った後に茶菓子を食べたり、囲碁や将棋をしたりするために使われるようになった [3]。このことから昔の銭湯は交流する場所であったことが分かる。また江戸・東京の歴史的な建物を移築、復元し展示している野外博物館の江戸東京たてもの園には子宝湯（図 1-4）がある [4]。このように銭湯は日本人の生活にとってかかせないものであった。しかし銭湯が減少している今日、子どもと高齢者が自然に混ざり合うなどの世代交流や高齢者の孤立防止など地域コミュニティの再生が失われている。そのため銭湯について調べることによって地域コミュニティの再生や文化・歴史的資産の保護に繋がるのではないかと考える。本論はその建築も含め、今日廃れつつある銭湯文化を今後に継承していくために銭湯の有り様を整理して資料として提示していくことを目的とする。

図 1-4　江戸たてもの園「子宝湯」



1.2 調査方法

まず銭湯の歴史について学び、銭湯のインテリア計画において重要視されていた特徴を

調べる。次に本論では第二次世界大戦で大規模な空襲を免れたこともあり、木造の銭湯や建築様式や壁画など文化的価値など長い歴史をもつ銭湯が残っている [3] 京都に着目する。京都府浴場組合[注1)] のホームページ [6]や銭湯ごとの公式のホームページ、SNS を使い、銭湯ごとのの特性を調べる。床面と壁面の特性を年代別に分類し、表にまとめ、表をもとに床面と壁面の時代ごとの特徴を調べる。床面と壁面を合わせた年代別の特徴を明らかにする。また地域別においても床面と壁面の特性を地域別に分類し、表にまとめ、表をもとに床面と壁面の地域ごとの特徴を調べる。床面と壁面を合わせた地域別の特徴を明らかにする。最後に今後の銭湯文化について考える。

第 2 章銭湯の歴史

2.1 銭湯ができるまで

寺院の七堂伽藍には保健衛生のため必ずといってよいほど温室があり、医術を心得る僧医が栗生済度の一つとして病人を治療し、必要に応じて温室を利用した。そして温室の様々な効果を聞き伝えた者が次々に集まったが応じきれなくなり、境内に別に衆生向きの大きな浴場を設けるようになった。この大きな浴場を大湯屋と称した [3]。これが銭湯の起源である。また銭湯のルーツは石風呂などと呼ばれる洞窟や室を利用したものである。熱を送り込んで高温にしたのち、そこに入る方式や東大寺の大湯屋に残る中央に沸かした湯を入れた大釜を置き、部屋を蒸気で満たす方式もあった [3]。

2.2 江戸時代の銭湯

江戸時代初期における銭湯様式には大きく分けて 2 種類ある。1 つは戸棚風呂と呼ばれた蒸し風呂形式で、おもに蒸気浴を楽しむものである。深さ 30cm ほどのところに湯が張ってあり、蒸気を逃がさぬよう周囲を板で囲い、入浴する時は引き戸を開けて入る方式になっている。この形がまるで戸棚のようなのでこの名前がつけられたといわれている。また浴室内は真っ暗であり、たくさんの人がいっぺんに入れないという欠点があった [3]。そこで考え出されたのが柘榴口と呼ばれた形式である。戸棚風呂の入口にあった引き戸のかわりに、高さ1mほどの低い小さな出入口をつけ、内部に畳3枚ほどの湯船を置くことで、多くの人が入浴できるようになった。しかし相変わらず蒸気を逃がさないように周囲を囲い、小さな窓がひとつある程度であった。そのため中は薄暗く、柘榴口から入る時は声をかけたり、咳払いをしたりする[注2)] など何かと気配りが必要だったといわれている [3]。また柘榴口といっても銭湯により違いがあった。形はおもにカーヴのある唐破風[注 3)] と呼ばれる寺社仏閣に使用される屋根の形のものや鳥居の形のもの、金箔を使用したもの、飾り彫刻のあるもの、漆塗り仕上げ、美しく絵の描かれたものなど実に趣向を凝らした造りになっていた。当時、庶民の使用する建物の外観に豪華な唐破風様式などを使用することは、基本的に禁じられていたため、外から見えない内部で銭湯ごとの個性がある。柘榴口は、いわば銭湯のステイタスシンボル的な役割を果たしていた。このようなところに江戸の町人文化の豊かさがうかがえる。しかしそんな柘榴口も明治時代に入ると、新しい形式の湯の出現により、1885 年ごろは廃止となった [3]。当時、戸棚風呂の銭湯を「風呂屋」、柘榴口の銭湯を「湯屋」と呼んでいたが、より多く湯が使える柘榴口の銭湯がだんだんと主流になっていった [3]。

江戸の多くの銭湯は男女別だったが、上方は混浴だったとされている。もっとも男女別の場合でも入口は分かれているが、湯船はつながっている [3] など形式はいろいろあった。

入口を開けるとそこは土間で、履物をぬぎ、棚に入れる。中には下足番のいる銭湯もあった。次に一段高くなった板の間に上がると、そこには「高座」と呼ばれる高い台がある。「番台」とも呼ばれたもので入浴料を徴収したり、体を洗う糠袋[注 4)] などの販売をしたりしていた。その先が脱衣場になっており、脱いだ着物は棚に入れるか、戸つきロッカーのようなところへしまうか、風呂敷に包んで床に置くところもあった。脱衣場の先は洗い場であり、脱衣場と洗い場の境は特になかった。浴室には客に湯を汲む専門の「湯汲み男」と呼ばれる男性がおり、あがり湯を柄杓で汲み、客の木桶についでくれる人がいた。また木桶は銭湯のものもあったが、銭湯の桶より大きい「留桶」という小判型の桶もあった [3)]。

2.3 明治時代以降の銭湯の変化

1897 年頃にも日本橋の柳湯に柘榴口があったと[注 5)]。しかし銭湯の構造も時代とともに変化していった。1877 年頃、鶴沢紋左衛門なる人物が全国各地の温泉地の浴槽からヒントを得て、神田区連雀町に拓榴口をなくし、浴槽の床の高さを流し場と同じにし、浴室には湯気抜きの天井窓をつけ、洗い場を広くした。明るくかつ衛生的な従来と異なるかなり開放的な構造の銭湯を開店した。[注 6)] この銭湯は今までの湯に対して「改良風呂」や「温泉式風呂」と呼ばれ、現在における銭湯の基本的構造が確立された [3)]。

改良風呂を開店する 1 年前、散髪後の入浴客に限り、現在でいう鍵つきロッカーのようなものを盗難防止のための脱衣入れ番号札を渡していた。また当時の照明はランプ、浴室は現在のようなタイル張りではなく、江戸時代と同様にすべて板張りだった。床が板張りの銭湯は戦前まであり、浴槽にはヒノキやヒバの木が使用された。改定期呂の登場はそれ以降における銭湯様式に大きな影響を与えた [3)]。また銭湯の数が増えるにつれて、設備なども進歩してきた。特にそれまでは高価なこともあってあまり使用されることのなかったタイルが使われるようになり、板張りの洗い場や木造の浴槽は消え、タイル張りの銭湯が明治時代末期から大正時代にかけて少しずつ増えていった [3)]。

第 3 章タイルと絵画について

第 2 章の銭湯の歴史から金箔を使用した装飾、飾り彫刻のあるもの、漆塗り仕上げ、美しく絵の描かれたものなどの「装飾」、高座とも呼ばれる高い台であり、入浴料を徴収していた「番台」、江戸時代は小さな窓 1 つある程度だったのが、明治時代以降は浴室には湯気抜きの天井窓をつけた「窓」、銭湯の数が増えるにつれて設備なども進歩し、それまでは高価なこともあってあまり使用されることのなかったタイルが使われた。また明治時代末期から大正時代にかけて少しずつ増えていった「タイル」の 4 つがインテリア計画において大事だということが分かった。その 4 つの中で本論では装飾の「絵画」と「タイル」に着目する。

3.1 銭湯の絵画について

銭湯の絵画には主に 2 つの種類がある。1 つはペンキ絵である。1884 年、石川県鳳至郡出身の東由松は銭湯「キカイ湯」を建てて開業した。汽船のボイラーを他店にさきがけて取り付けたことを記念してこの店名をつけた。1912 年にその息子・東雄三郎は、旧店の隣に新キカイ湯を増築し、浴室の壁面にペンキ絵を掲げた [3)]。これが銭湯のペンキ絵のはじまりである。雄三郎さんが「子どもが喜んで風呂に入れるように」と考え、絵を描くことを発案した。当時は男性側に富士山などの風景画、女性側には子どもが多いので、汽車や汽船などを題材にした絵が多かった。それまで何もなかった浴室の壁に、ある日忽然と富

士山の絵が現れたのを見た客の間で評判となった。またキカイ湯に初めて描かれた絵は富士山であり、画家は静岡県の掛川出身の川越幸四郎である[3)]。富士山を描いた理由として心に残る故郷の美しい風景として描いたのではないだろうか。そしてそこに目をつけたのが広告屋だった。当時はまだラジオもなく、多くの人々が出入りする銭湯は江戸時代より広告の場として利用されていた[3)]。

2 つはタイル絵である。タイル絵は白い無地のタイルに絵付けしたもので、一般的には大きさが三六角と呼ばれるサイズを使うことが多い。使用される場所は入口扉の左右や玄関を入り下足箱のある部分、すなわち番台の背中にあたる部分が多く、題材は、「福助」や「宝船」などが多い。男女の浴室の境やペンキ絵の真下、湯船の上あたりにあることもある[3)]。また絵を描くのとは方法が違うが、タイル系絵画の 1 つにモザイク画があり、1 センチメートル四方前後の小さなタイルをパッチワークのようにして絵を構成するものである。タイル絵ほどは使用されてはいないが、基本的には浴室のタイル絵と同じ部分に登場している[3)]。そのほかにもタイル系絵画以外では、ガラス絵というものもある。なかでも裸婦をモチーフにしたものが多いが、東京以外ではあまり使用されていない[3)]。

3.2 タイルについて

銭湯の数が増えるにつれて、設備なども進歩してきた。特にそれまでは高価なこともあってあまり使用されることのなかったタイルが使われるようになった。板張りの洗い場や木造の浴槽は消え、タイル張りの銭湯が明治時代末期から大正時代にかけて少しずつ増えていった。清潔で衛生的なタイルが重宝された。また震災後、タイルが広く使われるようになったのは、衛生面だけではなく防火の面からも適していた素材であったためである[3)]。

明治時代初期、外国人建築家による設計で建築されるようになった西洋建築では、暖炉周りや床に輸入タイルが使われるようになった。やがて、輸入タイルを手本にした国産の陶製タイルが発売されると、それを用いた仕上げや装飾タイルが広まっていった。床タイルがさらに普及するきっかけになったのは、1970 年の大阪万博である。六角形パターンの床タイルなどモザイクタイルが万博のお祭り広場に使われて以降、エクステリア床にタイルが普及していった[6)]。

第一次世界大戦後の 1918 年〜1921 年にスペイン風邪のパンデミックが起こったのを機に「国民すべての衛生観念を高めよう」と国を挙げての呼びかけがあり、徐々に人々の清潔さへの意識が高まっていった。またそれ以前から進んでいた欧米型の合理的な生活様式を促す「生活改善運動」も活発になり、日本の銭湯・公衆浴場が不衛生で伝染病の温床になっているという指摘から銭湯には汚れが付きやすい木材を用いず、西洋のようにタイルや人造石を用いることと定められた。1922 年の平和記念東京博覧会では「文化村」パビリオンでタイル張りの水まわり設備を備えたモデルハウスが多数提案され、一般家庭の台所や浴室などにもタイルが広まっていった[6)]。

1935 年頃から岐阜県多治見市で施釉磁器モザイクタイルの生産が始まった。白く四角いタイルと同様、耐久性に優れ、洗いやすいという理由から普及していった。戦後の経済成長で人々の暮らしが豊かになると、さらに、マジョリカタイルという半立体で極彩色のきらびやかなデザイン性豊かなモザイクタイルが好んで使われるようになり、赤、黄、緑などカラフルなモザイクタイルや幾何学模様の描かれたタイルで水まわり空間を装飾することが増えていった[6)]。

昭和後期になると一般的な住宅にもユニットバスや洋風便器が普及したことから、内装タイルの使用量は徐々に減少し、耐水性のある壁紙やプラスチック素材が多用されるようになった[6)]。

これらのことから本論では六角形パターンなどの絵画、幾何学模様、モザイクタイル、装飾タイルの４つの視点に着目する。

第４章銭湯の特性[注7]

(1)新シ湯

新シ湯は京都市東山区にあり、100 年以上営業している。浴室前はレンガ調の 3 段差、薬風呂の出っ張り部分の腰回りタイルには洋風の模様タイル。浴室は白く低めの天井、壁は淡いグレーの寒色系、床面はベージュの暖色系、浴槽枠の淡い小豆色の四角タイル、格子状でデザインされている。ところどころに色をチラしたモザイクタイル仕上げの 3 本の太い柱、上の部分は色とりどりのタイルでちょっとした工夫で華やかにしている。カラン台は赤御影、側面はステンレスパネルになっている[7)]。壁面は赤や青などカラフルな色合いと白で格子柄にデザインされている。

図 4-1　新シ湯の浴室



(2)芋松温泉

京都市中京区にあり、昭和時代に開業した。浴室入口スペースの天井に採光窓がありスペースとしての独立感がある。銭湯全体として、脱衣場・浴室入口スペース・浴室の三部に分かれている[8)]。床面は丸模様でデザインされている。壁面は白や青、赤などを使い、モザイクタイルでデザインされている。

図 4-2　芋松温泉の浴室



(3)上野湯

京都市北区にあり、昭和時代に開業した。浴室入口上部には男女ともに狛犬が鎮座している。ほぼすべてが左右対称になっている銭湯である。浴室に入ると掛かり湯槽、右にサウナ室、左に水風呂。天井も白一色、男女壁に逆サクランボ状の大きな照明が特徴的である。床面は網目柄でデザインされている。壁面は白を基調としているが青色のマジョリカタイルが特徴的である[9]。

図 4-3　上野湯の浴室



(4)サウナの梅湯

サウナの梅湯は京都市下京区にあり、開業は明治時代。湊三次郎が 2015 年リニューアルオープンした。床面は茶色の同系色でデザインされている。壁面は白とグレーの格子柄でデザインされている。またカランには花柄が装飾されたタイルがデザインされている。また壁面の最大の特徴はペンキ絵師の田中みずきさんの作品の松の絵が浴室内に飾られていることである[10]。

図 4-4　サウナの梅湯の浴室



図 4-5　梅湯（城陽市）の浴室



(5)梅湯城陽

京都府城陽市にあり、昭和 34 年に開業した。床面は白と青の格子柄でデザインされている。壁面は白を基調としたシンプルなデザインであるが、赤と黄色の装飾タイルがアクセントになっている[11)]。

(6)栄盛湯

栄盛湯は京都市左京区にあり、大正 14 年に開業。サウナ、浴室側・脱衣所側ともにガラス窓になっていて、脱衣所のテレビが浴室側からも見られるようになっているという、ちょっとしたアイデアもの。また洗い場の鏡が縦に長いアーチ状、そのサウナの横、男女壁に沿って手前から水風呂、観葉植物で分けて、すわり風呂と前に浅風呂の複合風呂、そこから細胞分裂するイメージで浴室中央に円形の泡浅風呂が並ぶ、なんともユニークな配置。浴槽枠は赤御影、側面は白系の大きめモザイク、床はすべり止めの白色が使われており、壁は腰下が赤色と青色の格子柄が使われている[12)]。

図 4-6　栄盛湯の浴室



(7)加茂温泉

京都市北区にあり、昭和初期から経営されており、80 年を超える老舗のある銭湯。2003 年 5 月に改装している。昔ながらの格天井、浴室は新しい明るさ満点で、湯気抜き大きめの白天井に壁は下がマーブルタイルで上がベージュタイル、浴槽枠とカラン台は茶系の御影石。床面、壁面共にシンプルなデザインで、ポイントで格子柄や花の装飾タイルがデザインされている[13)]。

図 4-7　加茂温泉の浴室



(8)鴨川湯

鴨川湯は京都市左京区にあり、大正 15 年創業である。男女別の暖簾がかかっており別々に入るが、中は脱衣場と玄関一体型の普通の番台式である。全体の印象はレトロでこぢんまりとしている。脱衣場は規模のわりにスペースを大きくとっており、木製ロッカー、籐の籠、だけでなく、男女を分ける壁の上の欄間、全体が金属的な感じのする金色の古いマッサージ器がこの印象を作っている。浴室は、正方形で全体の配置も極めてオーソドックスな銭湯である。床面はグレーと白の網目柄でデザインされている。またカラン近くの壁面は鹿子柄でデザインされており、浴槽の側面は青色のモザイクタイルでデザインされている [14]。

図 4-8　鴨川湯の浴室



(9)銀座湯

京都市左京区にあり、大正時代に開業した。6 年間の休業を経て、2020 年 2 月にリニューアルオープンした。床面はでシンプルな色合いになっている。壁面は白とグレーの格子柄でシンプルにデザインされている。16 席とシャワーなし 3 席の中小規模の銭湯である [15]。

図 4-9　銀座湯の浴室



(10)金山湯

京都市中京区にあり、昭和時代に開業した。床面は白のシンプルなデザインになっている。外壁もグレーの石風タイルを使っており、浴室と統一感がある銭湯、アーチや高低に特徴がある。浴室天井は手前から奥にかけて大小 2 つのアーチがかかっており、それぞれに湯気抜きがある。男女壁がピンクをバックに緑の山並みをレンガタイルで表現しており、上部に並ぶ緑の瓦は奥に行くに連れてせり上がっているユニークなもの。壁面はグレー系の格子柄で、浴槽枠は黒御影、床はグレーの石風タイル、天井はそれらの色遣いにあわせてこれまたグレー系ラインを配したもので統一感、それだけだと物足りないところをアーチや山並みがアクセントになっている [16]。

図 4-10　金山湯の浴室



(11)銀水湯

京都市左京区にあり、昭和初期に開業した。カラン 21 席ある。床面は白と赤の網目柄でデザインされている。壁面は白色でシンプルなデザインになっている[17)]。

図 4-11　銀水湯の浴室



(12)金龍湯

京都市北区にあり、昭和 40 年に開業した。床面は白のシンプルなデザインになっている。壁面の奥に広がるタイル絵の女湯側は洋風な建物のバックに山々が連なり、建物の前には湖が広がっている。また白鳥達が優雅に泳ぐ絵が描かれている。。浴槽の延長線上に湖が広がることによって、まるでお湯から湖がつながっているような印象を与えている。浴槽の側面は格子柄でデザインされている[18)]。

図 4-12　金龍湯の浴室



(13)五香湯

京都市下京区にあり、昭和 9 年に開業した。浴室は広く、浴槽枠も側面もカラン台から男女壁にかけてすべて黒御影仕上げ。茶レンガ太い柱があってかわいらしい桜や魚の陶板レリーフが付いている床面は茶色の単色でデザインされている。浴槽は他の銭湯にはない黒色でデザインされている[19]。

図 4-13　五香湯の浴室





(14)桜湯上京区

桜湯は京都市上京区にあり、大正 8 年創業、100 年超の老舗である。暖簾をくぐると、男女共有の下足スペース。石畳とアーチ状の細かい豆タイル張りの床が魅力である。風呂の種類は浅風呂、深風呂、ジェット風呂、薬湯、ミストサウナと水風呂の 6 種類ある。深風呂の目の前には水槽があり、風呂入りながら、魚が泳いでいるのを見ることができる。風呂場に水槽は、昔の京都の銭湯で流行った[20]。白タイルベースの壁にアーチ型の青と白の鮮やかな色の天井で、大きく開いている天窓がある浴室である。浴槽の中のタイルは小型タイルが使用されている。また壁面はマジョリカタイルが特徴的である。

図 4-14　桜湯上京区の浴室



(15)新地湯

京都市伏見区にあり、昭和 6 年に創業された銭湯。洋風・石造りを彷彿とさせる左右対称の外観には「泉温」の二文字。昭和初期に建てられた当時の趣きを感じる。浴場内にはタイル絵があり、奥壁面の中央に海岸の風景が描かれ、同じく奥壁面の男湯と女湯境目には竹林が描かれている。浴槽の縁に腰掛けがなく、風呂の椅子がないことも特徴。京都式の入浴法で床に直に座るスタイルになっている。そのため、カランの位置も低くなっており、大阪の風呂様式とは異なる作りになっている。床面は白と茶色の網目柄でデザインされている。頭上近くには花の装飾タイル、カラン近くにはマジョリカタイルでデザインされている[21]。

図 4-15　新地湯の浴室



(16)宝湯

京都市伏見区にあり、昭和 6 年に建築された。口が島のように配置されているのも特徴で、これはお客様が湯船に浸かりに行く際、体を洗うお客様が邪魔にならないための工夫されている。壁も柱も天井も真っ白で木造。洗い場や浴槽は広くて、モザイクタイルのデザインがなんともかわいい。昭和初期に建築された当時は、煉瓦づくりの浴場だったが、昭和 40 年代に改築し安全性の高いコンクリートブロックに変わった。床面は白と茶色の網目柄でデザインされている。壁面は黄色の装飾タイルでデザインされている [22]。

図 4-16　宝湯の浴室



(17)京都玉ノ湯

京都玉ノ湯は京都市中京区にあり、明治 27 年に建てられた。先代が昭和初期に買い取って始めた [9]。床面は白とグレーの格子柄でデザインされている。床下から出てきたという昭和初期の頃のマジョリカタイルやオリジナルタイルが特徴的である。壁面は白とグレーでデザインされている。カランには六角形の花柄モザイクタイル、紅葉が装飾されたタイルでデザインされている [23]。

図 4-17　京都玉ノ湯の浴室



(18)長者湯

長者湯は京都市上京区にあり、創業は大正 6 年に造られた。男女に分けられた銭湯独特の暖簾をくぐると、木製の下駄箱にレトロな雰囲気を醸し出す脱衣ロッカー、見事な透かし彫りの欄間などがあり、綺麗に改装された清潔感漂う白いタイル張りの浴室は、超音波風呂、薬湯、白濁したお湯の酵素風呂、水風呂と種類も豊富である。また薪釜で沸かされるお湯は美味しい水として知られる京都の名水を井戸から毎日、汲み上げている [24]。浴室入口上部に敷き詰められたタイル絵の金閣寺がデザインされている。床面は白とピンクの格子柄でデザインされている。壁面は白い四角のタイルでデザインされている。

図 4-18　長者湯の浴室



(19)天翔の湯大門

天翔の湯大門は京都市右京区にあり、平成 18 年に開業した。地下 1000ｍから湧き出す源泉掛け流しの天然温泉。床面は灰色の単色で落ち着いたデザインになっている。浴槽の側面は格子柄でデザインされている [25]。

図 4-19　天翔の湯大門の浴室



(20)白山湯

白山湯は京都市下京区にあり、平成 14 年に開業した。床面は単色でシンプルなデザインになっている。浴槽の側面は白や青、赤などを使った格子柄でデザインされている [26]。

図 4-20　白山湯の浴室



(21)初音湯

初音湯は京都市中京区にあり、開業は明治 42 年である [10]。浴室はきれいに改装されており、明るく清潔感がある。床面は白とグレーの六角形の花柄モザイクタイルでデザインされている。壁面は大きめのタイル、イルカのタイル絵、ところどころに草のデザインのタイルがデザインされている。浴槽の部分に花模様のタイルがデザインされている [27]。

図 4-21　初寝湯の浴室



(22)花の湯

花の湯は京都市中京区にあり、昭和29年に創業された。13席とカランのみ5席であり、浅い湯船､深い湯船ともに独立しており、真ん中に林檎型噴水がある。昭和レトロな雰囲気と落ち着いた静かな環境で、名物の薬風呂は緑のお湯とネオンが特徴である。床面は白と黄色の格子柄でデザインされている。壁面は白を基調としているが青色のタイルが特徴的である [28]。

図 4-22　花の湯の浴室



(23)東野湯

東の湯は京都市山科区にあり、昭和 4 年に創業された。浴室入って中央に浴槽が縦に 3 つ並び、深風呂、ジェット＆浅風呂、電気風呂。そのまわりにシャワー＆カランが 20 弱ほど。そして、入口入ってすぐ右手に独り用シャワー室もある [29]。床面は緑の網目柄でデザインされている。床面とは対照的にシンプルなデザインになっている。

図 4-23　東野湯の浴室



(24)日ノ出湯

京都市南区にあり、昭和３年に銭湯として建築され、昭和 24 年に先代の当主が買い取り、日の出湯として営業を始めた。建物は木造２階建の脱衣場棟と鉄筋コンクリート造である。内部は蒸気抜きや採光のために，天井の中央部分に吹抜けが設けられている[30]。床面は白と青との胃袋模様でデザインされている。壁面は白を基調としているが青色のマジョリカタイルが特徴的である。

図 4-24　日ノ出湯の浴室





(25)日の出湯

日の出湯は京都府舞鶴市にあり、大正 9 年に開業した。細い路地に建つ町家造りの建物で、２階には床の間付きの和室が残る。国有形文化財には２０２１年２月に登録。「上質な床付の座敷を配すなど戦前の町家風銭湯建築の有様を示す」との評価を受けた。脱衣場の壁や洗面所、床には大小様々な色とりどりのタイルが施してあり、昭和レトロな雰囲気が漂う。日の出湯は創業当時から変わらず、井戸から汲み上げた五老ケ岳の伏流水を使用。角丸長方形の浴槽の形も創業から変わらず、１９５４年にタイル張りに。創業時は浴槽と床も石造りで、道後温泉のような感じであった[31]。床はシンプルだが排水溝の所は水色のタイルが使われている。壁面は腰下まで緑色の装飾タイルが使われている。

図 4-25　日の出の浴室



(26)船岡温泉

船岡温泉は京都市北区にあり、大正 12 年に創業した。文化庁の登録有形文化財にも指定された由緒ある唐破風造の建物。内装はレトロなマジョリカタイルから始まり、脱衣場の天井に彫られた鞍馬天狗や透かし彫りの欄間などが特徴的である。昭和７年建造の浴室は鉄筋コンクリートの近代的な作りに改築された。特徴的な内装とは対照的に床面も壁面も白を基調としたシンプルなデザインになっている[32]。

図 4-26　船岡温泉の浴室




(27)船戸湯

京都市南区にあり、昭和 37 年に創業した。開放感のある露天風呂が特徴的である。床面、壁面共に白と茶色を基調とした落ち着いた色使いになっている[33)]。




図 4-27 船戸湯の浴室



(28)松葉湯

松葉湯は京都市上京区にあり、明治時代初期に建てられ約 120 年以上の歴史がある[6)]。浴室内にある中庭には 40 羽のインコと亀がおり、浴室、サウナ、露天風呂のどこからでも見られるようになっている。浴室正面のタイル画は一枚一枚のタイルに釉薬で色がつけられ、上部には,アルプスの風景、下部には車窓からみた風景が描かれている[34)]。また腰壁のデザインは床と同じデザインが施されている。浴槽は茶色の長方形のタイルと青色の小型タイルが使われている。床面は白とグレーの格子柄でデザインされている。

図 4-28　松葉湯の浴室



(29)源湯

京都市上京区にあり、昭和 3 年創業の約 100 年続く老舗銭湯。源湯の浴室のテーマは「おさかな」。床面は緑色の格子柄でデザインされている[35]。壁面は壁一面に広がる山のタイル絵が特徴的である。また赤や黄色のタイルが特徴的である。

図 4-29　源湯の浴室

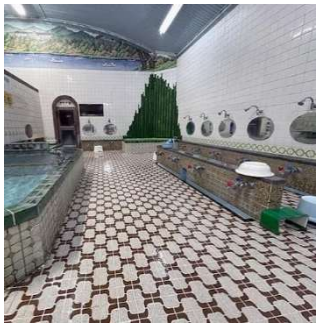




(30)壬生湯

京都市中京区にあり、昭和 11 年から営業している。浴室前スペースは 3 段差のカラフルタイル、上部は白とグレーのモザイク仕上げ、水風呂を囲む形で洗面台。業務用クーラーがこの浴室前スペースにあって夏の風呂上がりは至福の時。浴室は壁が白タイル、カラン台が御影石、浴槽枠はタイル、島カランが浴槽を囲み形で変則的に並んでいる。奥の竹のレプリカタイルやところどころに使われているマジョリカ風タイル。浴室奥の壁上部には男女にまたがる大きなモザイクタイル絵が特徴的である。床面は茶色と白の網目柄でデザインされている[36]。

図 4-30　壬生湯の浴室

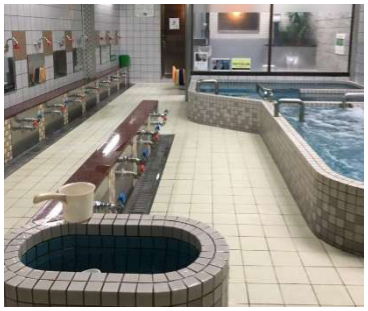




(31)むらさき湯

京都市北区にあり、昭和 6 年から続く町の銭湯。地下 100ｍの清廉な天然地下水を使っている[37]。床面は白でシンプルな色合いになっている。また浴槽の側面は格子柄でデザインされている。

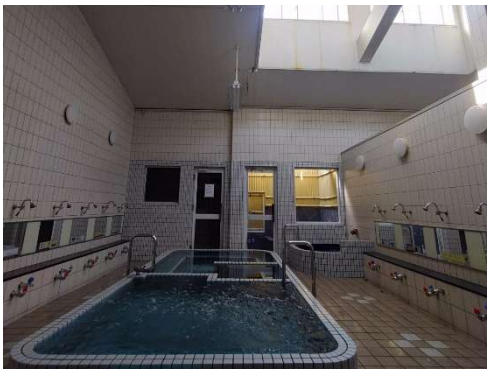
図 4-31　むらさき湯の浴室

(32)門前湯

京都市南区にあり、昭和 10 年頃に開業した。京都市の戦前の区画整備で大宮通の完成と同時に門前湯も出来た。床面も壁面も白でシンプルなデザインになっている[38]。

図 4-32　門前湯の浴室

(32)山城温泉

京都市上京区にあり、昭和 24 年頃に創業した老舗の銭湯。20 席弱続くカランの列の奥の方の背面に主浴槽があり、順にジェット風呂、寝湯、深風呂、電気風呂となっている[39]。床面はクリーム色の単色でデザインされている。壁面は緑とクリーム色の格子柄や赤や青の装飾タイルでデザインされている。

図 4-32　山城温泉の浴室




(33)洛陽湯

京都市南区にあり、昭和 32 年に開業した。床面は単色でシンプルなデザインになっている。壁面は大きなモザイクタイルでデザインされている[40]。

図 4-33　洛陽湯の浴室




(34)龍宮温泉

京都市上京区にあり、昭和 8 年創業時、先々代が浦島太郎の童話に登場する龍宮城をイメージして命名された。当初は龍宮城のように唐破風のある店構えだったが平成 24 年に大規模なリニューアルを行い、クールダウンベンチなどオリジナルの設備も導入した。浴室は中央に深い湯船と浅い湯船を配置。両サイドカラン。種々の湯船は奥。カランシャワーの取っ手が珍しい形をしている。壁面上部には草木の壁画がある[41]。床面は白のシンプルなデザインで浴槽の中に鯉のタイル絵が描かれている。

図 4-34　龍宮温泉の浴室




(35)鹿王湯

京都市右京区にあり、昭和初期～中期に開業した。床は白タイル、湯船付近は細かいタイルを使用、水風呂付近のレイアウトはオリジナル。壁は昭和中期的な木目プリント合板で天井も少し煤けた白の新建材。床は籐敷き、カラン数は外壁側に 9 機、男女境側に 3 機である。床面は白と青との胃袋模様でデザインされている。壁面は白を基調としているが青色のマジョリカタイルが特徴的である[42]。

図 4-35　鹿王湯の浴室



(36)若の湯

若の湯は京都府舞鶴市にあり、建物は大正 12 年に建てられ、創業は明治 36 年。100 年以上の歴史がある。2016 年にペンキ絵を一新し、現在では 2 名しかいない銭湯絵師である中島盛男さんが男湯は「富士山と天橋立」、女湯は「赤富士」でどちらも「富士山」をテーマに描いた。レトロな洋館風の建物が特徴で、有形文化財には２０１８年５月に登録された。国の文化審議会からは「華やかな印象で近代舞鶴の発展と賑わいを伝えるとともに、市内に残る数少ない銭湯の一つとして貴重」と評価された。敷地中央に切妻造りの玄関棟を構え、左右の浴場棟につながる。４代目の若井康江さんによると、当時の政府が洋風の建物を推奨しており、西欧の建築様式を学んだ親類の建築士が設計を手掛けた [43]。床面は白と茶色のモザイクタイルでデザインされている。壁面は白と茶色のマジョリカタイルでデザインされている。

図 4-36　若の湯の浴室





(37)模様の定義

本論の中では以下の模様名とする。

図 4-37 格子柄



図 4-38 ハニカムフラワー



図 4-39 胃袋模様



図 4-40 マジョリカ



図 4-41 丸模様



図 4-42 幾何学



図 4-43 鹿子柄



表 4-1　床面の特徴

視点 / 銭湯名	単色	絵画	幾何学模様	モザイクタイル	装飾タイル
新シ湯			格子柄		
芋松温泉			丸模様		
上野湯			胃袋模様		
梅湯（下京区）	○				
梅湯（城陽市）			格子柄		
栄盛湯	○				
加茂温泉	○				
鴨川湯			胃袋模様		
銀座湯	○				
金山湯	○				
銀水湯			胃袋模様		
金龍湯	○				
五香湯	○				
桜湯（上京区）	○				
新地湯			胃袋模様		
宝湯			胃袋模様		
京都玉ノ湯			格子柄		
長者湯			格子柄		
天翔の湯 大門	○				
白山湯（六条店）	○				
初音湯			ハニカムフラワー		
花の湯			格子柄		
東野湯			胃袋模様		
日ノ出湯			胃袋模様		
日の出湯	○				
船岡温泉	○				
船戸湯	○				
松葉湯			格子柄		
源湯			格子柄		
壬生湯			胃袋模様		
むらさき湯	○				
門前湯	○				
山城温泉	○				
洛陽湯	○				
龍宮温泉		タイル絵 海			
鹿王湯			胃袋模様		
若の湯				○	
計	17	1	18	1	0

表 4-2　壁面の特徴

視点 / 銭湯名	単色	絵画	幾何学模様	モザイクタイル	装飾タイル
新シ湯			格子柄	○	
芋松温泉				○	
上野湯					マジョリカ
梅湯（下京区）		ペンキ絵 木	格子柄		花
梅湯（城陽市）					色
栄盛湯			格子柄	○	
加茂温泉			格子柄		花
鴨川湯			鹿子柄	○	
銀座湯			格子柄		
金山湯			格子柄		
銀水湯	○				
金龍湯		タイル絵 山	格子柄		
五香湯					色
桜湯（上京区）					マジョリカ
新地湯		タイル絵 海			マジョリカ 花
宝湯					色
京都玉ノ湯				○	花
長者湯	○				
天翔の湯 大門			格子柄		
白山湯（六条店）			格子柄		
初音湯		タイル絵 海			草花
花の湯					幾何学
東野湯	○				
日ノ出湯					マジョリカ 花
日の出湯					色
船岡温泉	○				
船戸湯	○				
松葉湯		タイル絵 山	格子柄		
源湯		タイル絵 山			色
壬生湯		タイル絵 山	鹿子柄		マジョリカ 花
むらさき湯			格子柄	○	
門前湯	○				
山城温泉			格子柄		色
洛陽湯				○	
龍宮温泉		タイル絵 草木			
鹿王湯				○	幾何学
若の湯		ペンキ絵 山			マジョリカ
計	6	9	14	8	18

第 5 章分析結果

建築の全体は様々な要素が組み合わされて成立している。建築を物理的な構成要素の集合とするものの要素の捉え方の一つとして「床」「壁」「天井」など、建築を物理的な構成要素の集合とするものがあるが、人の視野は、健康な大人が両目で見た場合、個人差はあるが上 60 度、下 70 度の上下 120～130 度、左右に 150～200 度あるとされており、人は左右の視野が広く、次いで下側の視野が広いことがわかる。このことから人は左右と下が視野に入りやすくなっているため「床」「壁」の 2 つを対象する。

また本論において、床面とは人が両足で起立、歩行できる場所のことを指し、壁面とは壁と浴槽の側面のことを指す。

5.1 年代別

明治時代、大正時代、昭和時代、平成時代の 4 つの時代に分類して見ていく。

5.1.1 年代別における床面の特徴（表 5-1）

(1)床面の単色と多色の特徴

各銭湯の床面のタイルにおいて計 37 件を「単色」と「多色」の二分類により整理を行った。その結果、明治時代は単色タイルが 1 件、多色タイルが 3 件と多色タイルの方が多い傾向にある。大正時代は単色タイルが 4 件、多色タイルの使用が 4 件と均等であった。昭和時代は単色タイルが 10 件、多色タイルが 13 件と多色タイルの方が多い傾向にある。平成時代は単色タイルが 2 件、多色タイルが 0 件と単色タイルの方が多い傾向にある。時代別の床面において単色タイルが計 17 件、多色タイルが計 20 件と多色タイルの方が多いため次は床面の多色に着目する。

(2)床面の絵画、幾何学模様、モザイクタイル、装飾タイルの特徴

各銭湯の床面のタイルにおいて多色に分類した計２0 件を「絵画」「幾何学模様」「モザイクタイル」「装飾タイル」の四分類により整理を行った。その結果、明治時代は 3 件すべてが幾何学模様であった。大正時代は幾何学模様が 3 件と一番多く、次いでモザイクタイルが 1 件であった。昭和時代は幾何学模様が１2 件と一番多く、次いで絵画が 1 件であった。時代別の床面の多色において幾何学が計 18 件と一番多く、その次に絵画、モザイクタイルが計 1 件と多色の中で一番多かった幾何学模様に着目する。

(3)床面の格子柄、胃袋模様、ハニカムフラワー、丸模様の特徴

各銭湯の床面のタイルにおいて幾何学模様に分類した計 18 件を「格子柄」「胃袋模様」「ハニカムフラワー」「丸模様」の四分類により整理した。その結果、明治時代は格子柄が 2 件と一番多く、次いでハニカムフラワーが 1 件であった。大正時代は格子柄が 2 件と一番多く、次いで胃袋模様が 1 件であった。昭和時代は胃袋模様が 8 件と一番多く、次いで格子柄が 3 件、丸模様が 1 件であった。時代別の床面の幾何学模様において胃袋模様が計 9 件と一番多く、次いで格子柄が計 7 件、とハニカムフラワーと丸模様が計 1 件であった。

(4)床面のまとめ

格子柄は白と淡い色が使っていることが多く、シンプルな色合いになっている。また格子柄とは対照的に編目柄ははっきりとした色が使われていることが多く派手なデザインが多い。(1)(2)(3)から明治時代は幾何学模様の格子柄が多く、柄があるがシンプルな色合い

が使われているため落ち着いている。大正前期は単色が多く使われているため明治時代よりシンプルな色合いの銭湯が多い。大正後期は幾何学模様の格子柄や網目模様など明治時代に見られた特徴と昭和初期に見られた特徴が入り交じっている。昭和初期～中期は赤や青、緑などの色合いが使われており、幾何学模様の編目柄の派手なデザインが多い。昭和後期以降は単色や格子柄が使われており、大正前期と同じシンプルな色合いが多いという特徴が分かった。

5.1.2 時代別における壁面の特徴（表 5-2）

⑴壁面の単色と多色の特徴

各銭湯の壁面のタイルにおいて計 37 件を「単色」と「多色」の二分類により整理を行った。その結果、明治時代は単色タイルが 0 件、多色タイルが 4 件と多色タイルの方が多い傾向にある。大正時代は単色タイルが 2 件、多色タイルが 6 件と多色タイルの方が多い傾向にある。昭和時代は単色タイルが 4 件、多色タイルが 19 件と多色タイルの方が多い傾向にある。平成時代は単色タイルが 0 件、多色タイルが 2 件と多色タイルの方が多い傾向にある。時代別の壁面において単色タイルが計 6 件、多色タイルが計 31 件と多色タイルが突出して多い傾向にあり、床面以上に多色構成が顕著であった。そのため壁面の多色に着目する。

⑵壁面の絵画、幾何学模様、モザイクタイル、装飾タイルの特徴

各銭湯の壁面のタイルにおいて多色に分類した計 31 件を「絵画」「幾何学模様」「モザイクタイル」「装飾タイル」の四分類により整理を行った。その結果、明治時代は絵画、装飾タイルが 3 件と一番多く、次いで幾何学模様が 2 件、モザイクタイルが 1 件であった。大正時代は幾何学模様、モザイクタイル、装飾タイルが 3 件と 1 番多く、次いで絵画が 1 件であった。昭和時代は装飾タイルが 12 件と一番多く、次いで幾何学模様が 7 件、絵画が 5 件、モザイクタイルが 4 件であった。平成時代は幾何学模様が 2 件であった。時代別の壁面の多色において装飾タイルが計 18 件と一番多く、次いで幾何学模様が計１４件、絵画が計 9 件、モザイクタイルが 8 件となった。このことから多色の中で特徴が出ていた絵画、幾何学模様、装飾タイルの 3 つに着目する。

⑶壁面の絵画の特徴

各銭湯の壁面のタイルにおいて絵画に分類した計 9 件を「山」「海」「木」の三分類により整理を行った。明治時代は山、海、木それぞれ 1 件ずつであった。大正時代は山が 1 件であった。昭和時代は山が 3 件と一番多く、次いで海、木が 1 件ずつであった。時代別の壁面の絵画において山が 5 件と一番多く、次いで海、木が 2 件ずつであった。

⑷壁面の幾何学模様の特徴

各銭湯の壁面のタイルにおいて幾何学模様に分類した計 １4 件を「格子柄」「鹿子柄」の二分類により整理した。その結果、明治時代は 2 件すべてが格子柄であった。大正時代は格子柄が 2 件と一番多く、次いで鹿子柄が 1 件であった。昭和時代は格子柄が 6 件と 1 番多く、次いで鹿子柄が 1 件であった。平成時代は 2 件すべてが格子柄であった。時代別の壁面の幾何学において格子柄が計１２件と一番多く、次いで鹿子柄が計 2 件であった。

⑸壁面の装飾タイルの特徴

各銭湯の壁面のタイルにおいて装飾タイルに分類した計 １8 件を「草花」「マジョリカ」「色」「幾何学」の四分類により整理した。その結果、明治時代は装飾タイルの 3 件すべ

てが草花であった。大正時代はマジョリカが２件と一番多く、次いで色が１件であった。昭和時代は色が５件と一番多く、次いで草花、マジョリカが４件、幾何学２件であった。。時代別の壁面の装飾タイルにおいて草花が７件と一番多く、次いでマジョリカ、色が６件、幾何学が２件であった。

(6)壁面のまとめ

全体を通して壁だけでなく、浴槽までデザインされていることが多かった。デザインは草花などの自然をモチーフにした銭湯と幾何学模様が使われている銭湯が多い。(1)(2)(3)(4)(5)から明治時代は山や木の絵画や草花や紅葉の装飾タイルなど自然をモチーフにした銭湯が多く、華やかな銭湯が多い。大正時代は白を基調とした銭湯が多く、シンプルなデザインの銭湯が多かった。昭和初期～中期はポイントとしてマジョリカタイルが使われていたり、大きいタイル絵が飾られていたりするため、白を基調としていても派手な銭湯が多かった。昭和後期～平成時代はシンプルなデザインの銭湯が多いという特徴が分かった。

5.1.3 年代別の特徴

明治時代は自然をモチーフにした絵画など壁面に特徴がある銭湯が多くシンプルな床面との調和がとれている。大正時代は同じ色合いや白などを使っている銭湯が多く床面、壁面ともにシンプルなデザインが多い。昭和初期～中期は赤や青、緑など派手な色、胃袋模様、装飾タイルなどのデザインが床面、壁面共に多く、大正時代とは対照的に派手なデザインが多い。昭和後期以降は床面、壁面共にシンプルなデザインが多く、大正時代と似たデザインが多い。

図 5-1 明治時代の特徴例



図 5-2 大正時代の特徴例



図 5-3 昭和時代の特徴例



図 5-4 平成時代の特徴例



表 5-1 年代別における床面の特徴

時代	視点 / 銭湯名	単色	絵画	幾何学模様	モザイクタイル	装飾タイル
明治時代	松葉湯			格子柄		
	梅湯（下京区）	○				
	京都玉ノ湯			格子柄		
	初音湯			ハニカムフラワー		
	計	1	0	3	0	0
大正時代	長者湯			格子柄		
	桜湯（上京区）	○				
	日の出湯	○				
	船岡温泉	○				
	若の湯				○	
	新シ湯			格子柄		
	栄盛湯	○				
	鴨川湯			胃袋模様		
	計	4	0	3	1	0
昭和時代	上野湯			胃袋模様		
	源湯			格子柄		
	壬生湯			胃袋模様		
	むらさき湯	○				
	銀座湯	○				
	新地湯			胃袋模様		
	宝湯			胃袋模様		
	花の湯			格子柄		
	鹿王湯			胃袋模様		
	五香湯	○				
	銀水湯			胃袋模様		
	日ノ出湯			胃袋模様		
	金山湯	○				
	門前湯	○				
	龍宮温泉		タイル絵海			
	加茂温泉	○				
	芋松温泉			丸模様		
	山城温泉	○				
	金龍湯	○				
	東野湯			胃袋模様		
	洛陽湯	○				
	梅湯（城陽市）			格子柄		
	船戸湯	○				
	計	10	1	12	0	0
平成時代	天翔の湯大門	○				
	白山湯（六条店）	○				
	計	2	0	0	0	0
	計	17	1	18	1	0

5-2 年代別における床面の特徴

時代	視点 / 銭湯名	単色	絵画	幾何学模様	モザイクタイル	装飾タイル
明治時代	松葉湯		タイル絵山	格子柄		
	梅湯（下京区）		ペンキ絵木	格子柄		花
	京都玉ノ湯				○	花
	初音湯		タイル絵海			草花
	計	0	3	2	1	3
大正時代	長者湯	○				
	桜湯（上京区）					マジョリカ
	日の出湯					色
	船岡温泉	○				
	若の湯		ペンキ絵山			マジョリカ
	新シ湯			格子柄	○	
	栄盛湯			格子柄	○	
	鴨川湯			鹿子柄	○	
	計	2	1	3	3	3
昭和時代	上野湯					マジョリカ
	源湯		タイル絵山			色
	壬生湯		タイル絵山	鹿子柄		マジョリカ花
	むらさき湯			格子柄	○	
	銀座湯			格子柄		
	新地湯		タイル絵海			マジョリカ花
	宝湯					色
	花の湯					幾何学
	鹿王湯				○	幾何学
	五香湯					色
	銀水湯	○				
	日ノ出湯					マジョリカ花
	金山湯			格子柄		
	門前湯	○				
	龍宮温泉		タイル絵草木			
	加茂温泉			格子柄		花
	芋松温泉				○	
	山城温泉			格子柄		色
	金龍湯		タイル絵山	格子柄		
	東野湯	○				
	洛陽湯				○	
	梅湯（城陽市）					色
	船戸湯	○				
	計	4	5	7	4	12
平成時代	天翔の湯大門			格子柄		
	白山湯（六条店）			格子柄		
	計	0	0	2	0	0
	計	6	9	14	8	18

5.2 地域別

本論では中丹広域と右京区、北区、西京区の洛西エリア、左京区の洛北エリア、上京区、中京区、下京区の洛中エリア、東山区、南区、伏見区、山科区の洛南エリアの 5 つに分類して見ていく[注 8)]。

5.2.1 地域別における床面の特徴（表 5-4）

(1)床面の単色と多色の特徴

各銭湯の床面のタイルにおいて計 36 件を「単色」と「多色」の二分類により整理を行った。その結果、中丹広域は単色タイルが 1 件、多色タイルが 1 件と均等であった。洛西エリアは単色タイルが 5 件、多色タイルが 3 件と単色タイルの方が多い傾向にある。洛北エリアは単色タイルが 2 件、多色タイルが 2 件と均等であった。洛中エリアは単色タイルが 6 件、多色タイルが 8 件と多色タイルの方が多い傾向にある。洛南エリアは単色タイルが 3 件、多色タイルが 5 件と多色タイルの方が多い傾向にある。時代別の壁面において単色タイルが計 16 件、多色タイルが計 20 件と多色タイルの方がやや多い傾向にある。そのため床面の多色に着目する。

(2)床面の絵画、幾何学模様、モザイクタイル、装飾タイルの特徴

各銭湯の床面のタイルにおいて多色に分類した計 20 件を「絵画」「幾何学模様」「モザイクタイル」「装飾タイル」の四分類により整理を行った。その結果、中丹広域はモザイクタイルが 1 件であった。洛西エリアは幾何学模様が 3 件であった。洛北エリアは幾何学模様が 2 件であった。洛中エリアは幾何学模様が 7 件と一番多く、次いで絵画が 1 件であった。洛南エリアは幾何学模様が 5 件であった。時代別の床面の多色において幾何学が計 17 件と一番多く、その次に絵画、モザイクタイルが計 1 件と多色の中で一番多かった幾何学模様に着目する。

(3)床面の幾何学の特徴

各銭湯の床面のタイルにおいて幾何学に分類した 17 件を「格子柄」「胃袋模様」「ハニカムフラワー」「丸模様」の四分類により整理した。その結果、中丹広域は幾何学模様がなかった。洛西エリアは胃袋模様が 2 件と一番多く、次いで丸模様が 1 件であった。洛北エリアは胃袋模様が 2 件であった。洛中エリアは格子柄が 5 件と 1 番多く、次いで胃袋模様、ハニカムフラワーが 1 件ずつであった。洛南エリアは胃袋模様が 4 件と一番多く、次いで格子柄が 1 件であった。時代別の床面の幾何学模様において胃袋模様が計 9 件と一番多く、次いで格子柄が計 6 件、とハニカムフラワーと丸模様が計 1 件であった。

(4)床面のまとめ

(1)(2)(3)から中丹広域は柄があっても白を基調としているためシンプルなデザインが多い。洛西エリアは柄があるがシンプルな色合いが使われているため落ち着いている。洛北エリアは単色と胃袋模様などの幾何学模様が使われている銭湯が多く、シンプルな色合いと派手なデザインが半分ずつで分かれている。洛中エリアは単色と格子柄などの幾何学模様が使われている銭湯が多く、シンプルな色合いと派手なデザインが半分ずつ分かれている。洛南エリアは胃袋模様が使われている銭湯が多く派手なデザインが多いという特徴が分かった。

5.2.2 時代別の壁面の特徴（表 5-4）

(1)壁面の単色と多色の特徴

各銭湯の壁面のタイルにおいて計36件を「単色」と「多色」の二分類により整理を行った。その結果、中丹広域は単色タイルが 0 件、多色タイルが2件と多色タイルの方が多い傾向にある。洛西エリアは単色タイルが1件、多色タイルが7件と多色タイルの方が多い傾向にある。洛北エリアは単色タイルが1件、多色タイルが3件と多色タイルの方が多い傾向にある。洛中エリアは単色タイルが1件、多色タイルが13件と多色タイルの方が多い傾向にある。洛南エリアは単色タイルが3件、多色タイルが5件と多色タイルの方が多い傾向にある。時代別の壁面において単色タイルが計6件、多色タイルが計30件と多色タイルが突出して多い傾向にあり、床面以上に多色構成が顕著であった。そのため壁面の多色に着目する。

⑵壁面の絵画、幾何学模様、モザイクタイル、装飾タイルの特徴

各銭湯の壁面のタイルにおいて多色に分類した計30件を「絵画」「幾何学模様」「モザイクタイル」「装飾タイル」の四分類により整理を行った。その結果、中丹広域は装飾タイルが2件と一番多く、次いで絵画が1件であった。洛西エリアは幾何学模様が4件と一番多く、次いでモザイクタイル、装飾タイルが3件ずつ、絵画が1件であった。洛北エリアは幾何学模様が3件と1番多く、次いでモザイクタイルが2件であった。洛中エリアは装飾タイルが9件と一番多く、次いで絵画、幾何学模様が6件ずつ、モザイクタイルが1件であった。洛南エリアは装飾タイルが3件と一番多く、次いでモザイクタイルが2件、絵画、幾何学模様が1件ずつであった。モザイクタイルが1件であった。幾何学模様が2件であった。時代別の壁面の多色において装飾タイルが計17件と一番多く、次いで幾何学模様が計１４件、絵画が計9件、モザイクタイルが8件となった。このことから多色の中で特徴が出ていた絵画、幾何学模様、装飾タイルの3つに着目する。

⑶壁面の絵画の特徴

各銭湯の壁面のタイルにおいて絵画に分類した計9件を「山」「海」「木」の三分類により整理を行った。中丹広域は山が1件であった。洛西エリアは山が1件であった。洛北エリアは絵画がなかった。洛中エリアは山が3件と1番多く、次いで木が 2 件、海が 1 件であった。洛南エリアは海が 1 件であった。時代別の壁面の絵画において山が 5 件と一番多く、次いで海、木が2件ずつであった。

⑷壁面の幾何学の特徴

各銭湯の壁面のタイルにおいて幾何学模様に分類した計 14 件を「格子柄」「鹿子柄」の二分類により整理した。その結果、中丹広域は幾何学模様がなかった。洛西エリアは 4 件すべて格子柄であった。洛北エリアは格子柄が 2 件と 1 番多く、次いで鹿子柄が 1 件であった。洛中エリアは格子柄が 5 件と 1 番多く、次いで鹿子柄が 1 件、洛南エリアは格子柄が 1 件であった。時代別の壁面の幾何学において格子柄が計１２件と一番多く、次いで鹿子柄が計2件であった。

⑸壁面の装飾タイルの特徴

各銭湯の壁面のタイルにおいて装飾タイルに分類した計 17 件を「草花」「マジョリカ」「色」「幾何学」の四分類により整理した。その結果、中丹広域はマジョリカ、色が1件ずつであった。洛西エリアは草花、マジョリカ、幾何学それぞれ 1 件ずつであった。洛北エリアは装飾タイルがなかった。洛中エリアは草花が 4 件と 1 番多く、次いで色が 3 件、マジョリカが 2 件、幾何学 1 件であった。洛南エリアは草花、マジョリカがそれぞれ 2 件

ずつ、色が 1 件であった。時代別の壁面の装飾タイルにおいて草花が 7 件と一番多く、次いでマジョリカが 6 件、色が 5 件、幾何学が 2 件であった。

(6)壁面のまとめ

(1)(2)(3)(4)(5)から中丹広域は柄があるが、シンプルな銭湯が多い。洛西エリアは浴槽の側面に格子柄が使われている銭湯が多く、柄はあるがシンプルな色合いが使われているため落ち着いている。洛北エリアは幾何学模様の格子柄が多く、柄があるがシンプルな色合いが使われているため落ち着いている。洛中エリアは絵画や装飾タイルなどが多く使われており、派手なデザインが多い。洛南エリアは装飾タイルなどが使われているが、シンプルな色合いが多い。

5.2.3 地域別の特徴

中丹広域は床面、壁面共に柄があっても白を基調としているためシンプルなデザインが多い。洛西エリアは壁面において浴槽の側面に格子柄が使われている銭湯もあるが床面、壁面共にシンプルな色合いが使われているため落ち着いている。洛北エリアは床面においては胃袋模様などの幾何学模様が使われている銭湯が多く、派手なデザインが多いが壁面においてはシンプルな色合いで落ち着いたデザインである。洛中エリアは床面おいて単色や格子柄が使われており、シンプルな色合いが多いが壁面においては絵画や装飾タイルなどが多く使われており、派手なデザインが多い。洛南エリアは床面において胃袋模様の幾何学が使われており、派手なデザインが多いが壁面においてはシンプルなデザインが多いという特徴が分かった。

図 5-5 中丹広域の特徴例



図 5-6 洛西エリアの特徴例



図 5-7 洛北エリアの特徴例図



図 5-8 洛中エリアの特徴例



図 5-9 洛南広域の特徴例



表 5-3 地域別別における床面の特徴

地域	視点 銭湯名	単色	絵画	幾何学模様	モザイクタイル	装飾タイル
中丹広域	日の出湯	○				
	若の湯				○	
	計	1	0	0	1	0
洛西エリア	むらさき湯	○				
	船岡温泉	○				
	上野湯			胃袋模様		
	鹿王湯			胃袋模様		
	加茂温泉	○				
	芋松温泉			丸模様		
	天翔の湯 大門	○				
	金龍湯	○				
	計	5	0	3	0	0
洛北エリア	栄盛湯	○				
	鴨川湯			胃袋模様		
	銀座湯	○				
	銀水湯			胃袋模様		
	計	2	0	2	0	0
洛中エリア	松葉湯			格子柄		
	梅湯（下京区）	○				
	初音湯			ハニカムフラワー		
	京都玉ノ湯			格子柄		
	長者湯			格子柄		
	桜湯（上京区）	○				
	源湯			格子柄		
	壬生湯			胃袋模様		
	花の湯			格子柄		
	五香湯	○				
	金山湯	○				
	龍宮温泉		タイル絵海			
	山城温泉	○				
	白山湯（六条店）	○				
	計	6	1	7	0	0
洛南エリア	新地湯			胃袋模様		
	宝湯			胃袋模様		
	日ノ出湯			胃袋模様		
	船戸湯	○				
	門前湯	○				
	東野湯			胃袋模様		
	洛陽湯	○				
	新シ湯			格子柄		
	計	3	0	5	0	0
計		16	1	17	1	0

表 5-4 地域別における床面の特徴

地域	視点 銭湯名	単色	絵画	幾何学模様	モザイクタイル	装飾タイル
中丹広域	日の出湯					色
	若の湯		ペンキ絵山			マジョリカ
	計	0	1	0	0	2
洛西エリア	むらさき湯			格子柄	○	
	船岡温泉	○				
	上野湯					マジョリカ
	鹿王湯				○	幾何学
	加茂温泉			格子柄		花
	芋松温泉				○	
	天翔の湯 大門			格子柄		
	金龍湯		タイル絵山	格子柄		
	計	1	1	4	3	3
洛北エリア	栄盛湯			格子柄	○	
	鴨川湯			鹿子柄	○	
	銀座湯			格子柄		
	銀水湯	○				
	計	1	0	3	2	0
洛中エリア	松葉湯		タイル絵山	格子柄		
	梅湯下京区		ペンキ絵木	格子柄		花
	初音湯		タイル絵海			草花
	京都玉ノ湯				○	花
	長者湯	○				
	桜湯上京区					マジョリカ
	源湯		タイル絵山			色
	壬生湯		タイル絵山	鹿子柄		マジョリカ 花
	花の湯					幾何学
	五香湯					色
	金山湯			格子柄		
	龍宮温泉		タイル絵草木			
	山城温泉			格子柄		色
	白山湯			格子柄		
	計	1	6	6	1	9
洛南エリア	新地湯		タイル絵海			マジョリカ 花
	宝湯					色
	日ノ出湯					マジョリカ 花
	船戸湯	○				
	門前湯	○				
	東野湯	○				
	洛陽湯				○	
	新シ湯			格子柄	○	
	計	3	1	1	2	3
計		6	9	14	8	17

第 6 章まとめ

床面では滑り止めやゾーニングなどの機能性を重視しつつも、部分的な色彩変化を取り入れる事例が多く、全体として装飾性と実用性の両立が図られている。また単色タイルの均質性は、装飾的な多色タイルとの対比によって空間に安定感や落ち着きを与え、利用者に安心感をもたらしている。一方、壁面では多色タイルが特に顕著であり、自然景観や風景画的モチーフなど視覚的演出や空間の象徴性を重視したデザインが多く見られる。これらの傾向は、銭湯が単なる入浴施設ではなく、地域文化や美意識を映し出す公共的空間であるのではないかと考える。

今後は今回対象としなかった番台や窓、タイルの図案や材質、施工年代との関連を含めたさらなる調査を行い、京都における銭湯建築の装飾の変遷をより明確にしていきたい。

注釈

注 1)京都府浴場組合とは京都の銭湯を管理・運営する組織であり、地域の公衆浴場業界の発展を支援し、銭湯文化を守るために様々な取り組みを行っている。具体的には銭湯の情報提供や地域交流の促進、経営の持続可能性を図るための施策を推進している。

注 2) 式亭三馬著：「浮世風呂」に記されている。

注 3) 唐破風とは曲面がうねったそのにぎやかな形のこと。

注 4) 糠袋とは現在の石けんに当たるもので男女ともに使用されていた。

注 5) 木村荘八著：「東京今昔帖」に記されている。

注 6) 平田二郎著：明治 30 年前後の東京の風俗を記録した『東京風俗志』に記されている。

注 7) 本論では「京都に銭湯があること、銭湯の開業日が分かること、現時点で営業していること」の 3 つすべてに当てはまる銭湯に着目した。

注 8) 京都府のホームページから丹後広域、中丹広域、南丹広域、市内、山城広域の 5 つに分類し、整理した。その結果、丹後広域 0 件、中丹広域 2 件、南丹広域 0 件、市内 33 件、山城広域 1 件となり、地域によって特徴の偏りが激しいと判断したため、エリアを絞った。

参考文献

1) 厚生労働省：業種別マニュアル_公衆浴場.indd,
https://www.mhlw.go.jp/content/000505173.pdf

2) 統計局ホームページ：日本の住宅・土地－平成 20 年住宅・土地統計調査の解説
https://www.stat.go.jp/data/jyutaku/2008/nihon/2_5.html

3)町田忍：銭湯　「浮世の垢」も落とす庶民の社交場，ミネルヴァ書房，2016
p.12.22.23.44.52.66.138

4) 江戸東京たてもの園：復元建造物の紹介
https://www.tatemonoen.jp/restore/intro/east.php

5) 京都府浴場組合：【公式】京都銭湯　京都の銭湯 100 軒以上をご紹介
https://1010.kyoto

6)ダイワハウス：タイルの歴史は「キレイ」の概念とともに～衛生陶器として日本に普及したタイルの話～
https://www.daiwahouse.co.jp/tryie/column/think/inax_museums/

7) 新シ湯（京都府京都市）：地球のサウナ

https://hoshinosauna.hatenablog.com/entry/2024/05/06/154200
[8] 芋松温泉のレポート：裸で見る芸術 京都の銭湯 〜京都中の銭湯のタイル絵をご紹介〜
https://www.kyo1010.com/imomatsu-onsen/report.html
[9] 思い出話に花が咲く。京都・北区「上野湯」：お湯部
https://note.com/on1000to1010/n/n2ceda8039770
[10] サウナ旅 com：【2025】京都銭湯の聖地「サウナの梅湯」明治創業のレトロ町銭湯で日本の銭湯文化を感じる
[11] 梅湯：【公式】京都銭湯　京都の銭湯 100 軒以上をご紹介
https://1010.kyoto/spot/umeyu2/
[12] フレンドショップ　栄盛湯：生活協同組合コープ自然派京都
https://www.kyoto.shizenha.net/friendshop12/
[13] 地元から親しまれているお風呂屋さん：加茂湯
https://kitakita.otani.ac.jp/post-5779/
[14] 京都・北大路「鴨川湯」：継業ホヤホヤ！若き二人の店長が営む、地域のハブとしての銭湯
https://www.homes.co.jp/life/cl-spot/cm-public_bath/56815/
[15] リニューアルした吉田の［銀座湯］でリラックスタイムを：Leaf KYOTO
https://www.leafkyoto.net/store/220621-kyoto-ginzayu/
[16] 金山湯：裸で見る芸術 京都の銭湯 〜京都中の銭湯のタイル絵をご紹介〜
https://www.kyo1010.com/kinzan-yu/
[17] 銀水湯の Instagram
https://www.instagram.com/reel/DK1R2YrznRm/
[18] 金龍湯（@Gold77dragon）さん：X
https://x.com/Gold77dragon
[19] 京都銭湯特集／五香湯①サウナ室の中にサウナ室！2 つの顔を持つサウナ - SAUNA BROS.WEB：サウナブロスウェブ
https://saunabrosweb.jp/pickup_kyotosento_gokohyu_1_/2024/01/05/
[20] 【京都銭湯】レトロ銭湯文化は今も現役バリバリでサウナも有！創業 100 年超老舗「桜湯」：豆はなの今も昔も京都暮らし☆ヨ〜イヤサ〜♪
https://ameblo.jp/mamehana0705/entry-12870584049.html
[21] 京阪津探索記③　新地湯（中書島駅）：かころぐ
https://kakoyuu.hatenablog.com/entry/2024/04/16/073140
[22] 研究紀要第 5 号.indb
https://kyoto-bunkaisan.city.kyoto.lg.jp/report/pdf/kiyou/05/07_harada.pdf
[23] 京都玉の湯：https://www.kyoto-tamanoyu.com
[24] 湯道百選：家族で繋ぐ京の灯火｜　https://yu-do100.jp/publicbath/102b/
[25] 天翔の湯：裸で見る芸術 京都の銭湯 〜京都中の銭湯のタイル絵をご紹介〜
https://www.kyo1010.com/tenshono-yu/
[26] 白山湯六条店：裸で見る芸術 京都の銭湯 〜京都中の銭湯のタイル絵をご紹介〜
https://www.kyo1010.com/hakusan-yu/

[27] 三寒四温：玉の湯と初音湯 京都の同じ通りに並び立つ 2 軒の銭湯
https://note.com//mizuburoinochi/n/n1eb597bc5cb1
[28] ほっこり・まったり：花の湯
https://hananoyu-kyoto.jp
[29]【京都銭湯】創業昭和 4 年の古き良き銭湯文化残す山科唯一現存する絶滅危惧種「東野湯」：豆はなの今も昔も京都暮らし☆ヨ〜イヤサ〜♪
https://ameblo.jp/mamehana0705/entry-12890553389.html
[30]【京都】ノスタルジックな銭湯「日の出湯」で昭和時代にタイムトリップ！：るるぶ &more.
https://rurubu.jp/andmore/article/16174
[31] 舞鶴市「日の出湯」国の登録有形文化財に　今年開業 100 周年：京都民報 Web
https://www.kyoto-minpo.net/archives/2020/10/04/post-25705.php
[32] 建築を楽しむ銭湯《船岡温泉》：銭湯の聖地、京都へ！②｜Discover Japan｜ディスカバー・ジャパン
https://discoverjapan-web.com/article/119305
[33] レトロな煙突が魅力的！昔ながらの銭湯「船戸湯」で心も体も癒される極上のひととき ななめうえトラベル
https://nanameue-travel.com/interview-funatoyu/
[34] 大武千明：ひつじの京都銭湯図鑑，創元社，2016
https://sauna-tabi.com/umeyu/
[35] レトロ銭湯で心もほっこり一古くて新しいまちのお風呂屋さん「源湯」：上京ふれあいネット KAMING カミング
https://www.kamigyo.net/report/retro-sento-minamotoyu/
[36] 壬生湯：【公式】京都銭湯　京都の銭湯 100 軒以上をご紹介
https://1010.kyoto/spot/mibuyu/
[37] むらさき湯　主人　林 真弓 氏：むらさきスタイルプロジェクト
https://murasaki-style.rental-space-kyoto.com/syoukai/murasakiyu/
[38] 門前湯　吉本 遵子　氏：むらさきスタイルプロジェクト
https://murasaki-style.rental-space-kyoto.com/syoukai/
[39] 京都銭湯特集／山城温泉②実家の銭湯ではなくココを継いだワケ - SAUNA BROS.WEB：サウナブロスウェブ
https://saunabrosweb.jp/kyotosentto_yamasiroonsen_2_/2024/01/21/
[40] 京都サウナ銭湯：洛陽湯
https://rakuyoyu.hp.peraichi.com
[41] 龍宮温泉【公式】京都銭湯　京都の銭湯 100 軒以上をご紹介
https://1010.kyoto/spot/ryuguonsen/
[42] https://note.com/on1000to1010/n/n89a5e90ec9b2
ホッとする。京都市右京区「鹿王湯」：お湯部
[43] CO-KYOTO：登録有形文化財に指定された舞鶴市のレトロ銭湯「若の湯」へ
https://www.pref.kyoto.jp/co-kyoto/index.html